

## 日本気象学会2001年度総会議事録

場 所：東京大学安田講堂

日 時：2001年5月9日（水）13：30～14：30

参加者数：総会参加票による出席者2,617名, うち会場出席者216名

【総会成立の要件：通常会員現在総数(2001年5月9日現在3,746名)の過半数以上の出席がなければ成立しない。ただし、総会に出席できない通常会員で、当該議事につき他の出席通常会員に表決を委任した者、および書面によって決議に参加した者は出席とみなす。(定款第38条)】

### 議 事

#### 1. 開 会

萬納寺信崇庶務担当常任理事より総会成立の要件を満たしていることが報告され、総会の開会が宣言された。

#### 2. 議長選出

総会議長に中島映至会員（気候システム研究センター）を選出した。

#### 3. 理事長挨拶

廣田 勇理事長から、今大会開催担当機関である東京大学をはじめとする関係者に対する謝辞が述べられ、続けて会員に対して挨拶が行われた。概要は以下の通り。

今大会には、すでに700名近くの多数の会員が参加しており、各会場では活発な研究発表と議論が行われている。大会の準備と運営にご協力いただいた大会委員長をはじめとする関係者の皆さんに理事会を代表してお礼を申し上げたい。

ここで、会員の皆さんに3つのこととお話したい。一つは、第30期評議員会に対する気象学会の対応である。第30期評議員会は環境問題に関して社会と学会との接点を設けることが提言された。これに対する答えを天気誌上で報告する予定である。委員会で行われている活発な議論をもとに、責任ある回答を出したい。

二つめは、第31期評議員会に関することである。学会の中で活動している中堅・若手が抱えている問題を率直に述べてもらった。意見は天気誌上に掲載される予定である。これらの問題は一朝一夕には解決できないが、改善の努力の方向を示したい。

最後に学会の東アジア域交流の促進である。昨年、韓国の気象学会長が東アジアの国際交流を活発に行

いたいという提案を行った。その一環として理事長が韓国気象学会に招待され、交流の開始の気運が高まった。しかし、昨年末に韓国気象学会長の Moon 博士がご病気により急逝された。このような事態になったが、交流には積極的に取り組みたい。

#### 4. 学会賞授与

学会賞候補者推薦委員会担当の宮原三郎理事が選定理由を説明し、廣田 勇理事長から受賞者に賞状ならびに賞金・メダルが授与された。

本年の受賞者と、受賞対象となった研究は以下の通り。

近藤 豊会員（東京大学先端科学技術研究センター）  
「大気オゾンの収支に関わる窒素酸化物の挙動の研究」

露木 義会員（気象庁予報部数値予報課）  
「湿潤過程を含む4次元変分法による熱帯大気の4次元データ同化の研究」

#### 5. 藤原賞授与

藤原賞候補者推薦委員会副担当の住 明正常任理事が選定理由を説明し、廣田 勇理事長から受賞者に賞状ならびに賞金・メダルが授与された。

本年の受賞者と、受賞対象となった研究は以下の通り。

近藤純正会員（東北大学名誉教授）  
「大気境界層における熱および水などの収支に関する研究への貢献」

武田喬男会員（名古屋大学名誉教授）  
「雲物理学及びメソスケールの大気水循環研究への貢献」

#### 6. 議案の一括採択

中島映至議長から議案の一括採択が提案され、承認された。

#### 7. 2000年度事業報告

萬納寺信崇庶務担当常任理事から、総会資料に基づき、事業報告が行われた。

#### 8. 2000年度会計報告

勝山 税会計担当常任理事から、総会資料に基づき、会計報告が行われた。

#### 9. 2000年度監査報告

永田 雅監事から、総会資料に基づき、監査の結果が報告された。

事業報告、会計報告、監査報告に対して、黒字は

- 面白いアイデアが出たときに有効に活用すべきである、との意見が出された。
10. **日本気象学会細則の追加および規定の一部改定**  
萬納寺信崇庶務担当常任理事から、総会資料により、提案理由の説明があった。
11. **理事の辞任に伴う後任理事の選出**  
理事の辞任に伴い後任として理事会から推薦のあった3名の理事候補者について廣田 勇理事長より、推薦理由の説明があった。
12. **名誉会員の選出**  
理事会から推薦のあった6名の会員について廣田勇理事長より、名誉会員推薦理由の説明があった。  
この件に対し、より詳しい推薦理由、業績などを公表してほしいとの要望があった。
13. **2001年度事業計画**  
萬納寺信崇庶務担当常任理事から、総会資料に基づき、事業計画の提案が行われた。
14. **2000年度収支予算**  
勝山 税会計担当常任理事から、総会資料に基づき予算案の提案が行われた。

## 15. 採 択

以上の議案に対し、総会参加票による意見も合わせ、賛成多数で承認された。

## 16. 議事録署名人の指名

議事録署名人に木本昌秀（気候システム研究センター）、今須良一（同）を指名したところ、異議なく承認された。

## 17. 議長解任

中島映至議長により総会の議事運営に関する出席者の協力に感謝する旨挨拶があった後、議長は解任された。

## 18. 閉 会

萬納寺信崇庶務担当常任理事により総会の閉会宣言が行われた。

以上の議事録の通り相違ありません。

平成13年6月18日

総会議長 中島 映至 印  
出席者代表 今須 良一 印  
出席者代表 木本 昌秀 印

## 新たな名誉会員の決定について

第31期理事会

5月9日の2001年日本気象学会総会における議案6で名誉会員に推薦された6名の方々が承認されました。総会で、議案書では名誉会員候補者の御業績が十分に説明されていないとのご意見が出されましたので、あらたに名誉会員となられた方々の御業績を簡潔に御紹介いたします。

(五十音順、御名前は会員名簿の記載によりました。)

### Ooyama Katsuyuki (大山勝通) 会員：

米国ニューヨーク大学、米国ハリケーンセンターにおいて、熱帯低気圧の発生の数値的理論的研究、および、熱帯低気圧発生に関わるCISK（第二種対流不安定）の新概念確立等の先導的研究業績をあげられました。

### 栗原宜夫会員：

米国地球流体研究所(GFDL)において、熱帯低気圧数値予報モデルの開発とそれを用いた熱帯低気圧の発生過程と構造の解明、高精度熱帯低気圧数値予報実用モデルの完成等、基礎的、先導的研究の業績をあげられました。

### Sasaki Yoshi K. (佐々木嘉和) 会員：

米国オクラホマ大学において、変分法の導入による力学的気象解析の創始をされ、またメソスケール気象研究教育組織を發展させ、この分野での日米の研究交流を推進されるなどの業績をあげられました。

### 竹内清秀会員：

気象庁、気象研究所において、大気境界層及び乱流の研究を推進され、日本における1960～70年代の基礎